

# 要望書

2023年2月23日

名古屋市長 河村たかし 様

相生山の自然を守る会

代表 近藤国夫

相生山緑地を考える市民の会

共同代表 福井 清

外波山節子

名古屋市天白区天白町野並相生 28-341

## 「相生山緑地のあり方」を市民・行政・議会、三者の話し合いの場を求めます

21世紀に入り、緑地の価値が大きく変わろうとしている中で、身近な環境問題は私たちの生活・健康に深くかかわる問題として、市民一人ひとりが取り組む必要があります。行政にはこのことが重要な課題とする姿勢が求められています。ここ相生山緑地において、河村市長は緑地を分断する道路建設に対し、住民意向調査を行った後、「道路建設の廃止」を2014年12月に表明し、「自然環境の重要性」を市民に示しました。しかし、その後8年間を費やすも道路廃止作業は一向に進まないままになっています。

この相生山緑地に関する道路問題が市民の中でどのように理解されてきているのでしょうか？市長が「廃止表明」をする前に諮問した学術検証委員会の報告書（2010年12月9日）では、「現状を具体的にどう解決するかについては、今回の学術検証の結果を参考にし、政治、行政、地域住民などの当事者が高度で責任ある判断をされることになろう。」と結んでいます。この後12年間において問題を解決するに、様々な意見を持つ市民間で何が問われ、何が話し合われ、どのように進めて来たかが検証される必要があります。

「緑地計画検討会」が現地見学会も含め4回行われていますが、行政は「道路」と「緑地」を切り離しての検討を求めています。「相生山緑地のあり方」を検討するには「道路と緑地とのかかわり」は避けられない重要なテーマでもあります。参加者からは緑地一体とした自然環境への想いや提案が続出していたことを計画に反映される必要があります。

また、5回ほど行われたとする「意見交換会」は市民がグループ別にされ、別々に行政の報告・予定等に対して意見を述べることになり、その記録には市民の意見が別々に羅列されるのみです。意見の相違がある市民間で話合われる場とする「本来の意見交換会」を求めていたにも拘わらず、一度もその機会は設けられず、市民間の意思疎通は図れないままになっています。

学術検証懇談会（2021年3月30日）は10年前の委員会と同じメンバーが出席して非公開で行われました。市長の廃止表明後に行われた懇談会ならば「中止した時」の検証と「その対策」が議論の中心になると思われませんが、公開された記録などによると10年前からの変化を把握して道路建設の効果の検証を行うとしており、逆戻りの検証内容になっていると思われます。市民間の「対立」とか「価値観の相違」などの発言がありますが、その解決に向けての議論が整理されないままに、唐突に「折衷案」が語られ始め、いつの間にか「折衷案作成」が独り歩きし始めました。この「折衷」とは何と何の折衷かの説明もしようとせず、ただ検討中とするだけで進めるのは、市民不在の何物でもありません。折衷案作成業務委託までしているその費用は3300万円であります。これだけの費用と時間をかけるならば、先ず、市民間で抱える問題を市民と話し合い、解決に向けて検証や資料作成に費やされる必要があります。これらを基にフラットに市民・行政・議会が話し合うことが肝要と考えます。

については、真に市民に向き合い、話合うに必要な以下の項目の資料作成や検証を行い、その上で市民・行政・議会、三者の話し合いの場を持つように尽力されることをお願いいたします。

- 1) 弥富相生山線を中止した時の「必要となる対策とは？」また「その方法とは？」
- 2) 弥富相生山線の整備が「必要な効果なのか・必要な短縮なのか？」
- 3) 弥富相生山線の整備が「望まれる効果なのか・望まれる短縮なのか？」
- 4) 弥富相生山線の整備は「どのような改変なのか・造成工事なのか？」
- 5) 相生山緑地の自然環境から享受していることとは？
- 6) ヒメボタルが生息する相生山緑地の生態系の特性とは？
- 7) 10・20・30年後の市民にとっての相生山緑地とは？